

## 式 辞

今年の冬は、例年になく寒さが厳しかっただけに、この新しい季節の到来は私たちに、何かしら嬉しくなるような気分と新たな希望を与えてくれます。ここにPTA会長 松川博文 様をはじめ、多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、平成三十年度香川県立高松西高等学校の入学式を挙行できますことを、学校といたしまして誠にありがたく、厚くお礼を申し上げます。

ただいま入学を許可した二百八十名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。あわせて、これまでお子様を温かく支えながら深い愛情を持って育ててこられた保護者の皆様に心からお慶びを申し上げます。

さて、現代は社会におけるグローバル化や情報化が進む中、少子高齢化やエネルギー問題、不安定な国際情勢や地球規模での温暖化など、たくさんの不安要素が存在しています。また、十年後、二十年後の社会を考えると人工知能が進化し我々から仕事を奪ってしまうのではないかなど、現代を含めこれからの時代は、ある意味、我々にとって、生きにくい時代と言えます。この生きにくい時代をしっかりと生きてもらうためには、自分が世の中の役に立つためにはどうすべきか真剣に考え、そのために生涯にわたって学び続ける覚悟を持たなければなりません。そして、そのような生き方を支える健全な精神を持ち続けることが要求されます。

そこで、皆さんが高校生活を送るに当たって、特に伝えておきたいことが二つあります。

一つ目は、「なぜ学ぶのか、なんのために学ぶのか」ということを考えてほしいということ。このことを抜きにして、いくら先生が準備する課題をこなしても、大学での学びにはつながらないし、当然、生涯にわたって学ぶことはできない。大学に合格するためだけの学びではなく、未来へとつながる学びであってほしいのです。

「なぜ学ぶのか」、これは自分で答えを出してください。そうすれば、課題をこなす意欲もわき、最終的に誰に言われることなく自ら勉強するようになるでしょう。

二つ目は、「部活動や学校行事に最善を尽くせ」ということです。途中の苦労や最後までやり切ったときの達成感を味わったという経験を持つ人間は強い。総体や文化祭が終わってからの勉強に対する集中力がとても高く、学力は間違いなく伸びる。また、最善を尽くすとは仲間と切磋琢磨することであり、時には支え合うことである。クラスやチーム内で気が合う、合わないはあるかもしれない。しかし、互いを排除するのではなく、互いの長所短所を理解し合い、支え合うことができないで、社会に出て世のため人のために働けようか。「部活動や学校行事に最善を尽くす」ことは、皆さんの健全な精神を高めることになるのです。

幸い西高には、この二つのこと実践する条件が整っています。まず、みなさんの生活を支えてくれる素晴らしい先生たちがいます。皆さんの夢を叶えようと勉強や部活動を一生懸命支援してくれます。皆さんをきちんと理解して、時には厳しく、時には優しく目標へと導いてくれます。それから、自然に恵まれた学習環境。四季の移り変わりを体感しながら過ごす三年間は豊かな心を育ててくれます。そして、皆さんの高校生活を物心共に支援してくれる一万三千名を越える卒業生、「生徒たちの元気な声に、そして、勉強や部活動での活躍に元気と希望をもらっているよ」といってくれる地域の人たち。ひときわ目立つ校内の木々は本校創設当時、地域の人たちの、「緑豊かな学校で勉強させてあげたい」という思いの詰まった寄付によるものと聞いています。このように皆さんは、多くの人たちに見守られて高校生活を送ることになります。

さあ、いよいよ西高での新しい生活が始まろうとしています。この恵まれた環境に感謝することを忘れず、この環境の中で、今日ここに集った仲間と切磋琢磨し、支え合うことで本当の「学び」を手に入れることができるでしょう。また、同時に最後まであきらめない粘り強さ、他を思いやる優しさ、美しさや悲しみが分かる感受性などの健全な精神をも身につけることができるでしょう。そして、より専門性の高い学びの場である大学へと繋ぎ、自分ならではの個性を手に入れ、社会に必要とされる人材への道を歩んでほしいものです。

最後になりましたが、私ども教職員一同は、本日より皆様のお子様をお預かりいたします。これからの三年間、皆様の期待に応えられるよう、労を惜しまず努力して参ります。どうか、ご家庭におかれましても、学校との連携を密にさせていただきまして、これからはじまる新入生の高校生活が実り多いものになりますよう、ご支援、ご協力をお願い申しあげまして、式辞といたします。

平成三十年四月九日

香川県立高松西高等学校 校長 佐藤良二